

## 目次

はしがき .....	1
目次 .....	3

### 第1部 コーパスの構築とその利用

エストニア憲法制定会議議事録コーパス (松村一登) .....	7
イテリメン語コーパス構築のためのテキスト収集と電子化 (小野智香子) ...	15
コリゲーションと形態統語情報—類型論的観点から— (千葉庄寿) .....	37
アノテートされた大規模コーパスを用いた分析ツールの現状と今後の 方向性 (千葉庄寿) .....	55
少数言語におけるコーパス利用に関する一考察 (後藤斉) .....	71

### 第2部 個別言語の研究

エストニア語の動詞 <i>jõudma</i> 「できる；至る」の多義性 (松村一登) .....	91
エストニア語の動詞 <i>pruukima</i> 「必要だ；用いる」の多義性 (松村一登) .....	103
20世紀初頭のエストニアにおける「rahvas」認識—憲法制定会議議事録 を利用した言語学的歴史研究の試論として— (小森宏美) .....	115
A man coming from Shiraki — a Batsbi text (児島康宏) .....	131